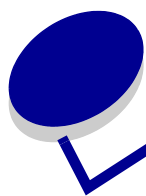


スクリプト インストール

説明書類

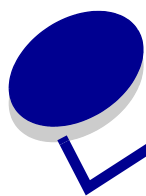
2002 年 9 月



目次

表示する項目をクリックして下さい

項目	説明	ページ
序文	スクリプト インストールの特徴と有用性	4 ページ
更新事項	前回のリリース以来の向上点	6 ページ
用語集	この文書で使われる用語の意味	7 ページ
起動	プログラム起動オプション	9 ページ
ドライバ プロファイラ	ドライバ予備設定ガイドライン	11 ページ
プッシュ インストール	Windows NT および Windows 2000 システムへのスクリプト インストール	12 ページ
プル インストール	Windows Me および Windows 9x システムへのスクリプト インストール	15 ページ
アンインストール スクリプト	スクリプトを使ってプリンタ、ドライバ、およびポートをアンインストール	18 ページ
ポート作成	IP ポートおよび Microsoft™ LPR ポートの作成	19 ページ
Writeini.exe	スクリプト変更ユーティリティ	21 ページ
ソフトウェアの更新	古いバージョンのソフトウェアの更新	23 ページ
トラブルシューティング	トラブルシューティングの方針と手段	24 ページ
スクリプト概要	スクリプト全体のフローの例	26 ページ
説明	スクリプトの sections 、 keys 、および values の機能	29 ページ
プリントサーバー機種別 key 値	ネットワーク プリントサーバー（アダプタ）の機種別の key 値の表	51 ページ
ポート別 key 値	物理的ポートの種類別の key 値の表	52 ページ



スクリプト インストール序文

スクリプト インストールは、ご自分のオフィスから離れた所の複数のクライアント ワークステーションにプリンタドライバをインストールできるようにする強力なツールです。インストールやソフトウェア更新を複数のシステムに同時に実行できます。

スクリプト インストールにより、予め構成設定を合せたプリンタ ドライバを自動インストールできます。適切なプリント サーバーに接続するようにネットワーク ポートが作成されます。またスクリプト インストールにより、MarkVision™ Professional、MarkVision メッセンジャ、ドライバ プロファイラおよび広範なネットワーク プリンタ プロトコルのサポートをカスタム設定で自動インストールできます。スクリプト インストールにより、プリンタに付属のドライバ CD 中のほとんど（お使いのオペレーティング システムによっては、全て）のソフトウェアを離れた所のクライアント システムに配布できます。スクリプト インストールでは、以下のプロトコルを使ってネットワーク ポートを作成することすらできます。TCP/IP、標準 IP、Microsoft LPR (Line Port Remote)、および UNC。

この多様なユーティリティは、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、および Windows XP をサポートしています。

スクリプト全体を、手動でテキスト エディタを使って作成することもできますが、ドライバ CD のインターフェイスで自動作成したものを編集する方が簡単でしょう。

26 ページのスクリプトの概要を参照して、インストール スクリプトのフローを把握して下さい。ただし、この概説には、機能する最低限度のスクリプトよりも多くの要素を含んでいることに注意して下さい。全てのフローと構造を示せるように、含めることのできる全ての要素を入れてあります。また、スクリプト ファイルの各部の詳細な説明については、**29 ページのスクリプトの section の説明**にある、sections および key の説明を参照して下さい。

本書には、通常の状況でスクリプト インストールを使用する指針と共に各状況のためのスクリプト プログラムの例が示してあります。これらの例を読み、**26 ページのスクリプトの概要**および**29 ページのスクリプトの section の説明**を参照すれば、素早く自作のスクリプトを作成できると思います。

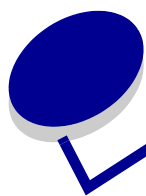
以下の要点を念頭に置いて、正確に要求を満たすスクリプトを作成して下さい。

- ネットワーク ポートを作成、または MarkVision、ドライバ プロファイラ、またはネットワーク サポートをインストールするには、双方向通信サポートがインストールされている必要があります。これらのリソースをインストールするスクリプトで同時に必要な双方向通信サポートをインストールできます。
- スクリプト インストールは、複数のプラットフォームに渡って機能します。つまり、Windows NT と Windows 2000 や Windows XP の全てに機能する一つのスクリプトを作成できます。Windows NT、Windows 2000、Windows XP のクライアントが混在するネットワークで、ユーザーが管理者特権を持っている場合は、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT、Windows 2000、Windows XP の全てに働く一つのスクリプトを作成することすらできます。
- Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでは、インストールを実行できるユーザー特権が必要です。

Windows XP

Windows XP システムへブッシュ インストールを行うには、インストール先のシステムでローカル ユーザーがゲストとしてではなく、自身として認証されるようにそのシステムを構成設定しておく必要があります。これには、ローカル セキュリティ ポリシー (Local Security Policy) を変更します。これらの設定は、以下の手順で確認できます。

- 1 [コントロール パネル] で、[管理ツール] ▶ [ローカル ポリシー] ▶ [セキュリティ オプション] を選択します。
- 2 [セキュリティ オプション] には、2 つの設定があります。間違いなく、[ネットワーク アクセス：ローカル アカウントの共有およびセキュリティ モデル] が無効で、[クラシック：ローカル ユーザーは自身として認証] が有効になっていることを確認して下さい。



更新事項

ドライバ CD のインターフェイス

- 複数のコンピュータ用のインストール スクリプトを、ドライバ CD インターフェイスだけで作成できるようになりました。ネットワーク内を参照して、スクリプトに含めるインストール先のコンピュータを選択できます。
- インストールの最終ダイアログに、作成されたスクリプト ファイルまたはインストール ログ ファイルを表示するか選ぶオプションが加わりました。

新しい Section

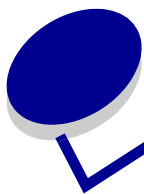
- スクリプトの書式に 3 つの新しい section が加わりました。[ComputerList]、[Defaults]、および [Tools]。インストール先のコンピュータで管理アクセスに共通のユーザー名およびパスワードを使用している場合は、[ComputerList] section に個々のコンピュータを列記し、それらに共通のユーザー名とパスワードを一度だけ [Defaults] section に入れば済みます。詳しくは、[48 ページの \[ComputerList\]](#) および [49 ページの \[Defaults\]](#) を参照して下さい。
- [Tools] section は、HP OpenView Network Node Manager および CA UniCenter 用 SnapIn のスクリプト インストールをサポートするために追加されました。詳しくは、[50 ページの \[Tools\]](#) を参照して下さい。
- スクリプトを使ってポートやプリンタの削除ができるようにアンインストール スクリプト section が追加されました。詳しくは、[18 ページのアンインストール スクリプト](#) を参照して下さい。

コマンド行

- コマンド行から直接、リモート インストールの標準設定のユーザー名およびパスワードを指定できるようになりました。[49 ページのコマンド行](#)という節に方法が説明されています。

ファイル拡張子

- インストール先のコンピュータのリストを .cmp という拡張子のファイル名で保存できるようになりました。個々のコンピュータをスクリプト ファイルに列記する代りに、スクリプトは、インストール先のコンピュータを .cmp ファイルから読取れるようになりました。このファイルがスクリプト インストールでどう機能するかの説明については、[49 ページの \[Defaults\]](#) を参照して下さい。



用語集

プッシュ インストール

スクリプト インストールは、一台の集中制御コンピュータ上で実行され、ソフトウェアをリモートの ターゲット システムへ送信します。ターゲット システムが稼動中で、ネットワークに接続されている必要がありますが、スクリプト インストールの実行中、ユーザーがログインしている必要はありません。**プッシュ インストール**は、集中制御コンピュータと共に全てのターゲット コンピュータがWindows NT、Windows 2000、またはWindows XP を使用している場合にのみ機能します。**プッシュ インストール**は、リモート インストールとも呼ばれます。

フル インストール

スクリプト インストールは、ソフトウェアがインストールされる ターゲット システムで実行されます。**フル インストール**は、全てのオペレーティング システムで機能します。**フル インストール**は、ローカル インストールとも呼ばれます。

サイレント モード

コマンド行から引数 /s を付けてスクリプト インストールを起動すると、それは**サイレント モード**で実行されます。つまり、画面に表示は出ず、インストールの記録が**ログ ファイル**に保存されます。

フィードバック モード

コマンド行から引数 /F を付けてスクリプト インストールを起動すると、それは**フィードバック モード**で実行されます。つまり、スクリプト インストールが実行されているシステムの画面上に状況やエラー メッセージが発信されます。**プッシュ インストール**では、この情報はターゲット コンピュータではなく**プッシュ インストール**を実行しているコンピュータへ発信されることに注意して下さい。

スクリプト

スクリプト インストールの実行命令を入れるデータ ファイルです。**section** に分れていて、各 **section** には最低一つの **key** があります。ほとんどの **key** は、**value** (値) を必要とします。ファイル名は、<スクリプト名>.ini の形式になっていて、以下のように Windows の通常の .ini ファイルと同じ構造になっています。

```
[section]
key=value
```

section

スクリプトは、**section** と呼ばれる関連したトピックの集りに分かれています。**section** はまた、**key** がどう解釈されるかを決定します。例えば、[drivers] **section** では **key** printer1= <プリンタ名>がどのプリンタドライバをインストールするかを指定します。section のフローの使用例と説明については、[26 ページのスクリプトの概要](#)および [29 ページのスクリプトの section の説明](#)を参照して下さい。

```
[drivers]
printer1=coming in
```

key

これは、**section** の中の変数です。各 **section** には、最低一つの **key** が必要です。それぞれの key の使用例と説明については、[26 ページのスクリプトの概要](#)および [29 ページのスクリプトの section の説明](#)を参照して下さい。

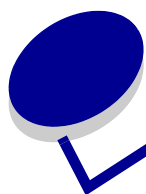
value (値)

key 変数の値です。**key** によっては、**value** (値) を取らないことに注意して下さい。それぞれの value の使用例

と説明については、[26 ページのスクリプトの概要](#)および [29 ページのスクリプトの section](#) の説明を参照して下さい。

ログ ファイル

スクリプト インストール プログラムから返された状況やエラーのメッセージを順を追って記録したファイルです。名前の拡張子は、.log で、スクリプト インストールが**サイレント モード**で実行される度に作成されます。処理されるスクリプトと同じディレクトリに、同じ名前に上記の拡張子付で作成されます。この**ログ ファイル**の場所と名前は、[9 ページの起動オプション](#)で説明されている /o コマンドを使って変更できます。一つの**ログ ファイル**に多数のスクリプト インストールの記録を含められ、各実行記録に日時が入ります。スクリプト インストール プログラムが作成すべきものと同じ名前の既存の**ログ ファイル**を検知すると、それに書きせず既存の**ログ ファイル**の末尾に記録を追加します。



起動オプション

スクリプト インストールは、MS-DOS（コマンド）プロンプトからもドライバ CD インターフェイスからも起動できます。また、CD インターフェイスでスクリプトを作成することもできます。

MS-DOS（コマンド）プロンプトから起動

スクリプト インストールを MS-DOS（コマンド）プロンプトで起動するには、使用する起動パラメータと共に適切なバージョンの `setup.exe`（ドライバ CD 上または CD のイメージ上）へのパスを入力します。このファイルは、CD の以下のディレクトリにあります。

```
%win_32%install%setup.exe
```

従ってドライバ CD からは、起動パス例は以下のようになります。

```
e:%win_32%install%setup.exe
```

ネットワーク上のドライバ CD のイメージを使用する場合は、起動パス例 1 は以下のようになります。

```
L:%source%driverscd%win_32%install%setup.exe
```

汎用パスを使った起動パス例 2 は、以下のようになります。

```
%images%print_resource%driverscd%win_32%install%setup.exe
```

スクリプト ファイルのある場所、ログ ファイルを保存する場所と共に、サイレント モードで実行するかフィードバック モードで実行するかを起動パラメータとして入力します。

`/I:` <パス><ファイル名> で、スクリプトのある場所を指定します。

`/O:` <パス><ファイル名> で、ログ ファイルを保存する場所を指定します（サイレント モードのみ）。

`/S` で、サイレント モードで実行することを指定します。

`/F te` で、フィードバック モードで実行することを指定します。

これらのパラメータの詳細については、[7 ページの用語集](#)を参照して下さい。

要約すると、コマンド行からスクリプト インストールを起動するには、以下の例のような命令を入力します。

```
E:%win_32%install%setup /I:L:%source%scripts%script.ini /O:C:%script.log /S
```

ドライバ CD インターフェイスから起動

- 1 ドライバ CD を起動し、**[プリンタ ソフトウェア]** **[同意する]** を選びます。
- 2 **[スクリプト インストール]** ▶ **[次へ]** を選びます。
- 3 使用する新しいスクリプトへのパスとその名前をタイプ入力するか、**[参照]** をクリックします。
- 4 **[完了]** をクリックします。

ドライバ CD インターフェイスから起動すると、スクリプト インストールはいつもフィードバック モードで実行されます。

ドライバ CD インターフェイスでスクリプトを作成

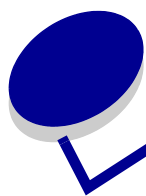
- 1 ドライバ CD を起動し、[スクリプト ツール] を選びます。
- 2 [新しいスクリプト ファイルの作成] ▶ [次へ] を選びます。
- 3 新しいスクリプトの名前とそれへのパスをタイプ入力し、[次へ] をクリックします。

ここから、このスクリプトでどのコンポーネントをインストールするかを指定するダイアログが表示されます。全ての選択肢の指定を合せ終ったら、[スクリプトの保存] をクリックします。ここでスクリプトを起動することもできるし、テキスト エディタで微調整することもできます。

注記：ドライバ CD インターフェイスでは、一台のリモート システムのためのターゲット情報しか入力できません。ターゲット システムを追加する方法については、[35 ページの \[Computer\]](#) および [36 ページの \[Computer1\]](#) を参照して下さい。

ドライバ CD インターフェイスを使って既存のスクリプトを編集

- 1 ドライバ CD を起動し、[スクリプト ツール] を選びます。
- 2 [既存のスクリプト ファイルを編集] ▶ [次へ] を選びます。
- 3 お使いのスクリプトの名前とそれへのパスをタイプ入力し、[スクリプトの編集] をクリックします。



ドライバ プロファイル

ドライバ プロファイルを作成して、ドライバの構成設定作業を自動化できます。さらにこのプロファイルをスクリプト インストールによるドライバのインストールに適用することができます。

ドライバ プロファイルには、保存された一組のプリンタ ドライバ設定と以下に示すようなパラメータのためのその他のデータが入っています。

- 印刷方向および複数ページ印刷（文書設定）
- 両面印刷ユニットや排紙トレイのインストール状況（プリンタ オプション）
- ユーザー定義用紙サイズ（カスタム用紙）
- 簡易テキストおよび透かし
- オーバーレイ参照
- フォント参照
- 用紙割当て

ドライバ プロファイル アプリケーションとドライバ CD 中のプリンタ ドライバを使って、ドライバ プロファイルを作成する必要があります。詳しくは、ドライバ プロファイルのオンライン ヘルプ（ドライバ プロファイルを実行してヘルプをクリックします）を参照して下さい。

注記： プリンタ ドライバのプロファイルをドライバ設定ファイルに保存するには、まずそのドライバをドライバ プロファイルがインストールされているシステムにインストールする必要があります。

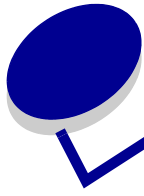
作成されたプロファイルは、DCF（ドライバ設定ファイル）に保存されます。DCF 内の各プロファイルは、その名称で識別されます。以下の手順 1 および 2 により、プリンタ オブジェクトの作成に使用するプロファイルの入った DCF が指定されます。

一つの DCF に任意の数のプリンタ機種および任意の数のドライバ（PostScript または PCL、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP）のプロファイルを含められます。プロファイルを作成する時にドライバ プロファイルで既存の DCF を指定して、その設定ファイルの末尾に新しいプロファイルを追加することもできます。同じ DCF の中に同じ名称のプロファイルを二つ入れることはできません。

ドライバ プロファイルでドライバの構成設定を生成でき、その結果をスクリプト インストールに使用できます。

プロファイルの作成が済むと、以下のようにスクリプト インストールを便利に使用できます。

- 1 DCF プロファイルでインストールするプリンタごとに [Printer1] section に
CfgFile=c:\printer_profiles\profile.dcf の形式で、一行追加します。ここで、等号の後の引数は、作成した DCF ファイルの名前と場所を指定します。
- 2 CfgEntry=short name の行を追加します。ここで、等号の後の引数は、プロファイルを作成した際にプロファイル名称として入力した名前です。



プッシュ インストール

これはプッシュ インストールの使用例です。

新しい Laser Printer 16 を導入しました。明日の締切りに間に合うようトラブルシューティングを済ませられるように、7 人のユーザー全員に全てのプリンタ ドライバを一度にインストールします。

- 1 全てのターゲット コンピュータは Windows NT を使用しているので、[computer] section のあるスクリプトを作成します。
- 2 [Defaults] という section を追加して、スクリプト ファイル、atonce.ini、内の全てのターゲット コンピュータへの管理者アクセスのあるユーザー名とパスワードを指定します。
- 3 [ComputerList] section の入った追加のファイル、list.cmp、を作成します。この section にお使いのコンピュータをホスト名または IP アドレスで列記できます。作成するスクリプトおよびコンピュータ リストは、以下に示すようになります。

atonce.ini

```
[Install]
Install_Driver=1
Install_MarkVision=0
Install_Network=1
Update_Software=0
Install_DrvCfgTool=0
Install_BIDI=1
Install_MVINET=0
Install_Port=1
Language=ENGLISH
OS=2000
Install_Tools=0

[BiDi]
StatusWindow=1

[Drivers]
Printer1=Laser Printer 16 PS3

[Printer1]
Model=Laser Printer 16
Stream=PS
Name=Accounting 3 (T(16))
RealName=Laser Printer 16 PS3
Port=portAcT
Share=0
ShareName=Printer
Alt9xDrv=0
Default=0
```

```

Published=1
CfgFile=L:\source\profiles\profiles.dcf
CfgEntry=16 Accounting
Comment=high speed mono laser for Accounting
Location=Accounting printer room 2

[Network]
TCPIP=1

[Defaults]
EUserName=ao`~S^]
EPassword=mIHt
ComputerList=list.cmp

[Port]
port1=CPAPort

[Port1]
protocol=TCPIP
ipaddress=192.168.236.24
portname=portAcT
communityname=public
adaptertype=32
porttype=0

```

list.cmp

```

[ComputerList]
Thompson.subdomain.mycompany.com
Miller-NT.subdomain.mycompany.com
Blackhole.subdomain.mycompany.com
Gabriel.subdomain.mycompany.com
Honeydew.subdomain.mycompany.com
station12.subdomain.mycompany.com
192.168.236.24
Barrows-NT.subdomain.mycompany.com

```

このスクリプトは、新しいネットワーク プリントサーバーとの通信のためにネットワーク ポート「portAcT」を作成し、プリンタ ドライバが使用する TCP/IP ネットワーク サポートをインストールします。ユーザーのコンピュータがプリンタからのメッセージを受信して表示できるように、双方向通信サポートとステータス ウィンドウをインストールします。最後にこのスクリプトは Laser Printer 16 用の PostScript 3 ドライバを「Accounting 3 (16)」という名前で、インストールします。このプリンタは、ネットワーク共有されません。ドライバは、profiles.dcf という名前のドライバ設定ファイルに保存されているプロファイルに基いて自動設定されます。これらは、お使いの共通管理者アカウントを使用してワークステーション Thompson、Miller-NT、Blackhole、Gabriel、Honeydew、station12、192.168.236.24、および Barrows にインストールされます。

- 4 全てのターゲット ワークステーションの電源が入っている事を確認します（ユーザーがログインしている必要はありません）。
- 5 お使いのシステムから、このスクリプトを実行するスクリプト インストールを起動します。

```

L:\source\printcd\win_32\install\setup /I:L:\source\scripts\atonce.ini
/O:L:\source\scripts\atonce.log /S

```

(このコマンドは、お使いの L: ドライブにあるドライバ CD のイメージからスクリプト インストールを起動し、スクリプト atonce.ini を処理するように指定します。また、スクリプト インストールがサイレント モードで実行され、ログ ファイルがスクリプトと同じディレクトリに保存されるように指定します。)

- 6 折に触れてログ ファイル atonce.log を調べて行きます。間もなく、ターゲットに指定した全てのワークステーションへのインストールが反映されます。ユーザーは皆、新しいプリンタを使えるようになり、その間で自分の部署を離れる必要はありません。

ここで、ユーザーが皆 PostScript プリンタ ドライバと相性の悪いグラフィックス プログラムを使っているとしたら、

- 1 ユーティリティ writeini.exe を使って、示されているようにスクリプトを変更します。これにより、Laser Printer 16 用の PCL ドライバが同じターゲット コンピュータにインストールされます。writeini.exe を 4 回実行することになります。

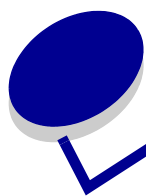
```
writeini L:%source%scripts%atonce.ini drivers printer1 "Laser Printer 16"
writeini L:%source%scripts%atonce.ini printer1 name "Laser Printer 16"
writeini L:%source%scripts%atonce.ini printer1 realname "Laser Printer 16"
writeini L:%source%scripts%atonce.ini printer1 stream pcl
```

注記：機能を強化する方法等、writeini.exe ユーティリティの詳細については、[21 ページの スクリプト変更ユーティリティ](#)を参照して下さい。

- 2 ここで、同じスクリプトを以前と同じように起動します。

```
L:\source\printed\win_32\install\setup /I:L:\source\scripts\atonce.ini
/O:L:\source\scripts\atonce.log /S
```

今度はこのスクリプトは、このプリンタ用の PCL ドライバをインストールします。



プルインストール

これはプル インストールの使用例です。

新しく Color Laser Printer 16 を導入しました。50 人のユーザーのコンピュータにプリンタ ドライバをインストールする必要があります。ユーザーはコンピュータの操作に慣れている人ばかりで、電子メール プログラムから バッチ ファイルを起動することに抵抗はありません。

- 1 任意のテキスト エディタを使用して下記の 16.ini のようなスクリプトを作成します。

16.ini

```
[Install1]
Install_Driver=1
Install_MarkVision=0
Install_Network=1
Install_Tools=0
Update_Software=0
Install_DrvCfgTool=0
Install_BIDI=1
Install_MVINET=0
Install_Port=1
Language=ENGLISH

[BiDi]
StatusWindow=1

[Drivers]
Printer1=Color Laser Printer 16 PS3

[Printer1]
Model=Color Laser Printer 16
Stream=PS
Name=Color Printer G
RealName=Color Laser Printer 16 PS3
Port=portG16
Share=1
ShareName=Printer
Alt9xDrv=0
Default=0
CfgFile=L:\source\profiles\profiles.dcf
CfgEntry=16 Room G
```

```

Comment=High end color printer for department D15
Location=Room G

[Network]
TCPIP=1

[Port]
port1=

[Port1]
protocol=TCPIP
ipaddress=192.168.236.24
portname=portG16
communityname=public
adaptype=32
porttype=0

```

このスクリプトは、新しいネットワーク プリントサーバーとの通信のために論理ポート「portG16」を作成し、プリンタ ドライバが使用する TCP/IP ネットワーク サポートをインストールします。ユーザーのコンピュータがプリンタからのメッセージを受信して表示できるように、双方向通信サポートとステータス ウィンドウをインストールします。最後にこのスクリプトは Color Laser Printer 16 用の Postscript ドライバを「Color Printer G」という名前で、インストールします。ネットワーク共有名は、「Printer」です。ドライバは、profiles.dcf という名前のドライバ設定ファイルに入っているプロファイルに基いて自動設定されます。

- 2** スクリプトを、インストール スクリプトおよびそのログ ファイルのためにお使いの LAN ドライブに作成したディレクトリにコピーします。

これで以下のファイルができました。

```
L:\source\scripts\16.ini
```

- 3** 以下の場所にドライバ CD のイメージを作成します。

```
L:\source\printed\
```

- 4** 作成したスクリプトでスクリプト インストールを行う際の参考になるバッチ ファイルを作ります。以下の例のようになります。

newprinter.bat

```

L:\source\printed\win_32\install\setup /I:L:\source\scripts\16.ini
/O:L:\source\scripts\16.log /S

```

このバッチ ファイルには、一行しかありませんが、必要なものは全て入っています。/I 引数は、入力（作成したスクリプト）のある場所を指定します。/O 引数は、スクリプト インストール処理を記録したログ ファイルを保存する場所を setup.exe に対して指定します。

ユーザー全員が同じバッチ ファイルを実行するので、16.log という名前の長いログ ファイルにメッセージが記録されます。各インストール別に正常に終了した、どのような問題が発生した、等がここに記録されます。

- 5 50 人のユーザーに、バッチ ファイルを添付した電子メールを送ります。以下にメールの例を示します。

To: Department D15

From: IS Staff

Subject: 新しいカラー レーザー プリンタ

Department D15 殿

「newprinter.bat」という名前の添付ファイルをダブルクリックして下さい。これにより、G 室にある新しいカラー レーザー プリンタを使えるようになります。このプリンタへ印刷出力を送信するには、[ファイル] → [印刷] をクリックし、[Color Printer G] を選択します。このプリンタが選択肢に現れなかったら佐藤までご連絡下さい。



newprinter.bat

- 佐藤 x1066

- 6 折に触れてログ ファイル 16.log を調べて行きます。日時の入ったインストール進行記録がたまって行きます。ユーザーは皆、新しいプリンタを使えるようになり、その間ご自分の部署を離れる必要はありません。

注記： Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでは、プル インストールを実行するユーザー アカウントが管理者特権を持っていないとスクリプト インストールは機能しません。Windows XP システムがブッシュ インストールを受付けるようにローカル セキュリティ ポリシーを変更する方法については、[5 ページの Windows XP](#) を参照して下さい。

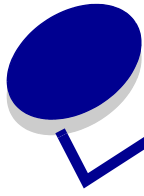
ここで、ユーザーがワークステーションで慣れない作業を行いたくないとします。ユーザーに自分で電子メール プログラムからバッチ ファイルを起動してもらうのではなく、ユーザーがアカウントに今度ログインした時にネットワーク ログインスクリプトが自動的にスクリプト インストールを起動するようにできます。

これらの行をネットワーク ログイン スクリプトに加えると、各ターゲット ユーザーのために既に実行されていない場合に限り、スクリプト インストールを自動的に実行します。

```
if exist c:\dunsrpt.out goto continue

L:\source\printed\win_32\install\setup /I:L:\source\scripts\16.ini
/O:L:\source\scripts\16.log /S

>c:\dunsrpt.out echo Installation already attempted on this workstation
:continue
```



アンインストール スクリプト

アンインストール スクリプトに使用される言語およびスクリプト内の要素の構造は、インストール用のものと似ています。インストール スクリプト同様、アンインストール スクリプトも変数 key およびその値（必要な場合）からなる section で構成されています。

例えば、アンインストール スクリプトは以下の形式になっています。

```
[Parent_Section]
Component=<flag>
```

「Parent」 Section に「Uninstall」を入れて、「Component」 section に示されている要素をアンインストールする作業であることを指定します。「flag」 section でアンインストールの仕方が決ります。flag が「1」だったら、その要素は、サブ要素が無いか関連する全てのサブ要素が削除されている場合にアンインストールされます。flag が「2」だったら、その要素および全ての関連するサブ要素が削除されます。

以下に「Pinion」という名前のプリンタのプリンタ オブジェクトと関連するソフトウェア要素を削除する簡単なアンインストール スクリプトの例を示します。

```
[Uninstall]
Printers=1
[Printers]
Pinion=2
```

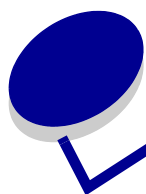
flag が「2」なので、このスクリプトを実行すると Pinion プリンタのプリンタ オブジェクトとそれに関連する全てのソフトウェア要素を削除します。

アンインストール スクリプトを実行するには、以下のようにコマンド プロンプトに入力します。

/I: <スクリプト ファイル名>

<スクリプト ファイル名>には、作成したアンインストール スクリプトの名前と拡張子 .ini を入れます。例えば、お使いのスクリプト ファイル名が「delete.ini」の場合、コマンドは以下のようになります。

/I: delete.ini



ポートの作成

スクリプト インストールにより、指定した protocol 値に従って IP、TCP/IP、LPR、または UNC ネットワーク ポートを作成できます。下記の表を参照して、作成しようとするポートの種類をインストール先の OS がサポートしていることを確認して下さい。

ポート オプションに関する OS によるサポート状況

ポートの種類	Protocol 値	ポート名	9x	NT	2000	XP
TCP/IP ネットワーク	TCP/IP		✓	✓	✓	✓
LPR	LPR		✗	✓	✓	✓
標準 IP	IP		✗	✗	✓	✓
UNC	UNC	\\server\printer (NT、2000、および XP)	✓	✓	✓	✓

スクリプト インストールで LPR ポートを作成するには、インストール先に「Microsoft TCP/IP Printing サポート」が既にインストールされている必要があります。

Windows NT での Microsoft TCP/IP Printing サポートのインストール

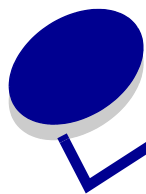
- 1 [スタート] ▶ [設定] ▶ [コントロール パネル] を開きます。
- 2 [ネットワーク] をダブルクリックします。
- 3 [サービス] タブを選び、[追加] をクリックして、[Microsoft TCP/IP Printing] を選択します。
- 4 [OK] をクリックしてプロンプトに表示される指示に従います。

Windows 2000およびWindows XPでのMicrosoft TCP/IP Printingサポートのインストール

- 1 [スタート] ▶ [設定] ▶ [コントロール パネル] を開きます。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] を開きます。
- 3 [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックします。
- 4 [その他のネットワーク ファイルと印刷サービス] にチェックマークを入れます。
- 5 [詳細] をクリックして、[UNIX 用印刷サービス] にチェックマークが入っていることを確認し、[OK] をクリックします。
- 6 [次へ] をクリックしてプロンプトに表示される指示に従います。

注記： IP または LPR ポートを作成できないと、プリンタ オブジェクトが作成されて LPT1 に割当てられます。この際、LPT1 が使用不能な場合、インストールは正常終了しません。インストールが正常終了しなかったら、ログ ファイルに記録されたエラー メッセージを調べて下さい。詳しくは、[24 ページのトラブルシューティング](#)節を参照して下さい。スクリプトによるポートの作成方法の詳細については、[45 ページの \[Port\]](#) および [46 ページの \[Port1\]](#) を参照して下さい。

注記： ポートの作成には、双方向通信サポートが必要です。[37 ページの \[Bidir\]](#) を参照して下さい。



スクリプト変更ユーティリティ

Writeini.exe は、既存のインストール スクリプトの中の一つのパラメータを変更します。

以下の形式で実行されます。

```
writeini <スクリプト ファイル> <section> <key> <value>
```

<スクリプト ファイル>パラメータには、スクリプトの名前とディレクトリ パスの両方が含まれています。Laser Printer15 PostScript ドライバをインストールするスクリプトの場合、[Drivers] section は、以下のようになります。

```
[Drivers]
printer1=Laser Printer15 PS3
```

このスクリプトを Laser Printer 16 PostScript ドライバをインストールするように変更するには、スクリプトの [Drivers] section を変更するために writeini.exe を以下のように実行します。

```
writeini a:\script.ini drivers printer1 "Laser Printer 16"
```

注記： 前の例のように入力する値にスペース（空白文字）が含まれている場合、それを引用符で囲んで、writeini.exe が正しく処理できるようにします。

これでスクリプトを調べてみると、以下のようになります。

```
[Drivers]
printer1=Laser Printer 16
```

writeini.exe は、適切に自動化して使うと大変便利なツールです。以下のバッチ ファイルは、writeini.exe を使って基本スクリプトを変更する方法を例示します。このバッチ ファイルを実行する度に、それは異なるネットワーク プリンタをインストールする written.ini という名前の新しいスクリプトを作成します。

next.bat

```
cd c:\temp
copy L:\source\scripts\script.ini .\written.ini
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Drivers Printer1 %1
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Model %2
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Stream %3
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Name %4
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Realname %1
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Port %5
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Printer1 Sharename%6
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Port1 IPAddress %7
L:\source\printcd\win_32\install\writeini .\written.ini Port1 Portname%5
L:\source\printcd\win_32\install\setup /S /I:c:\temp\written.ini
```

MS-DOS（コマンド）プロンプトで、以下のコマンドを入力して next.bat を実行します。

```
next "Laser Printer 16 PS3" "Laser Printer 16" ps "My 16" portGT Printer  
192.168.236.24
```

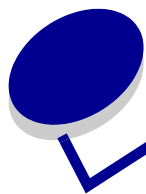
このバッチ ファイルは、お使いの初期インストール スクリプトのコピーを作成して c:\temp ディレクトリに入れます。そして、Laser Printer 16 PostScript ドライバを正しくインストールしてから、ネットワーク プリントサーバーと通信できるよう論理ポートを作成するようにこのインストール スクリプトを変更します。この全ての新情報は、バッチ ファイルを実行するときに入力する 7 つのパラメータとして伝達されます。

出張先で

writeini.exe やスクリプト インストールのようなユーティリティは、情報システム部員が出張する時等に便利です。CD やフロッピー ディスクだけを持って行って、お使いのネットワークから離れた場所でプリンタ ドライバをインストールできます。

スクリプトとインストールする各プリンタのドライバ プロファイルが入った DCF をフロッピー ディスクに入れます。スクリプト インストールを起動するバッチ ファイルも加えます（[16 ページの newprinter.bat](#) を参照して下さい）。複数のプリンタがある場合は、[21 ページの next.bat](#) のような変更用のバッチ ファイルを付けると良いでしょう。あるいは、各プリンタ別のスクリプトを付けます。スクリプトはディスク領域をほとんど取らないのでいくつでも付けられます。それと writeini.exe の実行に関しては、単純なバッチ ファイルのみを付けるのが良いでしょう。多分 IP アドレスを変更するものだけで済みます。

また、現地に着いてからドライバ CD でプリントサーバー セットアップ ユーティリティをインストールすることもできます。そうすれば、任意のプリンタのプリントサーバーを容易に設定し、プリントサーバー自身に保存されている universally administered ethernet address（汎用管理イーサネット アドレス）から始めてアドレスを記録できます。[40 ページの \[Network\]section](#) の節にスクリプト インストールでプリントサーバー セットアップ ユーティリティをインストールする方法が説明されています。



ソフトウェアの更新

新しいプリンタが入ったとします。ネットワーク上のソフトウェアおよびドライバを新しいプリンタに付属のドライバ CD に入っている最新バージョンに更新できます。

これを行うには、ドライバ CD インターフェイスを使うのが最も簡単な方法です。スプラッシュ画面が表示される前に、自動ソフトウェア検知機能によりお使いのソフトウェアを現行のバージョンに更新するかどうかを選ぶよう要請するプロンプトが表示されます。ただし、自動ソフトウェア検知機能は、プル インストールでしか動きません。

プッシュ インストールによるソフトウェアの更新を行って、古いドライバ、ネットワーク、またはソフトウェアを最新のドライバ CD に入っているものに置き換えることもできます。

以下の単純なコマンド行入力を使って一台のシステムのソフトウェアを更新できます。

```
E:¥win_32¥install¥setup /s
```

(ドライバ CD が E: ドライブに入っていると仮定しています。)

注記：ソフトウェアの更新を他のスクリプト インストール機能と組合せて実行することはできません。ソフトウェアの更新が要請されると他の全てのスクリプト項目は無視されます。

リモート ソフトウェアの更新を実行して複数のシステムのソフトウェアを更新できます。これにはスクリプトを作成します。[Install] section の Update_Software key を 1 に設定します。そして、どのコンピュータをターゲットにするのかを宣言し、ターゲットのシステムにアクセスできるようにアカウント情報を入力します。以下にスクリプトの例を示します。

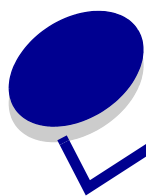
```
[Install]
Update_Software=1
Language=ENGLISH
OS=NT

[Computer]
Computer1=

[Computer1]
ComputerName=HAANS
UserName=kraken
Password=seafood
```

入力するアカウントに管理者特権があることを確認して下さい。リモート ソフトウェアの更新は、プッシュ インストールになります。[35 ページの \[Computer\] 節](#)および [36 ページの \[Computer1\] 節](#)が参考になる筈です。

注記：リモート ソフトウェアの更新は、Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでしか動きません。



トラブルシューティング

普通のインストール作業で問題になることは全てスクリプト インストールでも問題を起します。問題が起った時には、以下の事項を調べて下さい。

- インストールするオプション全てに関して、対応する section が、スクリプトに入っていることを調べます。サポートされている key とそれに必要な section の一覧については、[29 ページのスクリプトの section の説明](#)を参照して下さい。
- ターゲット コンピュータ、ソース コンピュータ、プリンタ、およびネットワーク プリントサーバーの電源が入っていて、エラー状態になっていないことを確認します。それらに ping コマンドを発行してネットワークに接続されていることを確認します。
- ソースとターゲット（異なる場合両方）コンピュータで、背景で実行されているソフトウェアを調べます。インストール プログラムまたはそれに必要なリソースを妨害している可能性があります。
- Windows NT、Windows 2000、または Windows XP を使用している場合、ターゲット コンピュータに必要な特権を持ったアカウントを使っていることを確認します。Windows XP システムでプッシュ インストールが受け入れられるようにローカル セキュリティ ポリシーを変更する方法については、[5 ページの Windows XP](#) を参照して下さい。
- 実行しようとしているインストールの種類またはインストール先の OS と互換性のない要素をインストールしようとしている可能性があります。例えば、Windows 98 システムにプッシュ インストールしようとしている、または Windows NT システムに標準 IP ポートを追加しようとしている等。

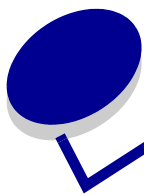
スクリプト インストールでインストーラ自身または .ini ファイルに関するエラーが発生すると、エラー コード番号が script.log ファイルに記録されます。エラー コードの説明に関しては、下の表を参照して下さい。

注記： スクリプト インストールが Microsoft エラー コード番号を示す場合は、対応する Microsoft エラー コード表記が自動的に番号の隣に現れます。

エラー コードの説明

エラー コード番号	説明
-1	インストールは、キャンセルされました。
0	インストールは、正常に終了しました。
1	未知のエラーが発生しました。
3	インストールされた要素をアンインストール ログファイルに記録できないためインストールは中止されます。
4	スクリプトで指定されている OS は、正しくありません。
5	必要なリソース DLL が見つかりません。
6	指定されたユーザーは、管理者ではありません。
7	インストール作業が指定されていません。

エラー コード番号	説明
8	インストール後のユーティリティでエラーが発生しました。プリンタ ドライバ ユーティリティは、カスタム インストーラにより実行され、プリンタ ドライバを設定し、その設定を更新します。
9	インストールで、印刷プロセッサを追加できませんでした。
10	インストール先ディレクトリが無効です。
11	インストールで、双方向通信サポートを追加できませんでした。
12	インストール中、リモート コンピュータでスプーラを開始できませんでした。
13	リモート コンピュータに接続できません。
14	リモート コンピュータから接続解除できません。
15	インストールで、ドライバ ファイルをコピーできませんでした。
16	インストールで、言語モニターを追加できませんでした。
17	ポートを作成できません。
18	インストールで、プリンタ オブジェクトを作成できませんでした。
19	インストール後処理が正常終了しませんでした。
20	ディスクがいっぱいです。
21	ディレクトリを作成できませんでした。
22	別のインストールのインスタンスが実行中です。
23	このポートは既に存在します。
24	インストールで、プリンタ オブジェクトを作成できませんでした。
25	インストールで、ドライバを追加できませんでした。
26	インストールで、プリンタを更新できませんでした。
27	インストールで、ドライバを更新できませんでした。
28	何も選択されていません。
29	ポートがありません。
30	インストールで、代替ドライバを追加できませんでした。
31	コピーするファイルがありません。
32	スクリプト ファイルに無効な引数が入っています。
33	既存の INI を削除できません。
34	INI のためのメモリーを割当てられません。
35	Setup.exe が見つかりません。
36	インストール先のコンピュータにログオンできませんでした。
37	システムにユーザーがログオン中のため、そのユーザーとしてログオンすることができませんでした。



スクリプトの概要

このスクリプト例には、スクリプト インストールでサポートされている全ての section および key が入っていて、全体の中での使い方が分るようになっています。この節を印刷して参考にとすると良いでしょう。

[Install1] [33 ページ参照]

Install_Driver=1

Install_Network=1

Update_Software=1

Install_DrvCfgTool=1

Install_Port=1

Language=Italian [選択肢は、English、French、German、Italian、Spanish、Portbrzl、Chi_Simp、Chi_Trad、Japanese、Korean です。]

Install_BIDI=1

Delete_Printers=1

Delete_Ports=1

Connect_Printer=1

Redirect_Port=1

Publish_Printer=1

Install_MVINET=1

Install_Tools=1

AllowReboot=0

OS=9x;NT;2000;XP

[Computer] [35 ページ参照]

Computer1=

Computer2=

Raindrop=

[Computer1] [36 ページ参照]

EComputerName=Kh4fPM@s*

EUserName=|GmSjBf4

EPassword=&xfSilTGt

[Computer2]

ComputerName=mesopotamia

Username=gilgamesh

Password=catal_huyuk

[Raindrop]

ComputerName=HAL

UserName=Dave

Password=open_door_HAL

```

[BIDI] [37 ページ参照]
StatusWindow=1

[Drivers] [38 ページ参照]
Printer1=Laser Printer 15 PS3

[Printer1] [39 ページ参照]
Model=Laser Printer 15
Stream=PS [選択肢は、PS、PCL です。]
Name=15
RealName=Laser Printer 15 PS3
Port=CPAPort
Share=1
ShareName=Printer
Alt9xDrv=1
AltNTDrv=1
Published=0
Default=0
CfgFile=c:\printer_profiles\15.dcf
CfgEntry=15 Postscript
Comment=Script Install has taken its first step into a larger world.
Location=Everywhere.

[Network] [40 ページ参照]
NetWare=1
TCP/IP=1
Lexlink=1
DLC=1
UPS=1
P2Pserver=1
P2Pclient=1
IPX=1
DLC=1
ServerAgent=1
Tivoli=1
AdapterSetupUtility=1
AdapterSetupUtilityDir=C:\Program Files\Printer\PrintServerUtility

[DrvCfgTool] [41 ページ参照]
RunDrvCfgTool=1
DrvCfgToolDir=C:\Program Files\Printer\Driver Profiler

[MVINET] [42 ページ参照]
MVINETServerDir=C:\Program Files\Printer\MarkVision Server
MVINETServer=1
MVINETSrvVMessenger=1
MVINETSrvWebClient=1
MVINETSrvWDPOnly=1
MVINETSrvWDPWin=1
MVINETSrvWDPUnix=1
MVINETClient=1
MVINETClientDir=C:\Program Files\Printer\MarkVision Client

```

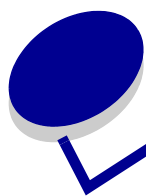
```
[ConnectPrinter] [43 ページ参照]
Printer1=\\Server\printerX
Printer2=\\Server\printerY

[RedirectPort] [44 ページ参照]
LPT3:=\\server\printerX

[Port] [45 ページ参照]
Port1=

[Port1] [46 ページ参照]
Protocol=TCPIP [選択肢は、TCPIP、LPR、IP、UNC です。]
IPAddress=192.168.236.24
PortName=CPAPort
CommunityName=public
AdapterType=32
PortType=0

[Tools] [50 ページ参照]
Setup Utility=1 [See pg _]
SetupUtilityDir=c:\.....
HPOpenView=1
CAUniCenter=1
PrinterSetupUtility=1 [sep pg _]
```



スクリプトの section の説明

- 以下の表に現在スクリプト インストールがサポートしている section および key を示します。この表を参照して、全ての必須対 section がスクリプトに含まれていることを確認して下さい。

注記： 対 section は、それを要求する key の値が 1 に設定されている時のみ必要です。値が 0 の場合は、その対 section は検索されません。

サポートされている Section、Key、および必須対 Section

Section	サポートされている Key	必須対 Section
[Install]	Install_Driver	[Drivers]
	Install_Network	[Network]
	Update_Software	
	Install_DrvCfgTool	[DrvCfgTool]
	Install_Port	[Port]
	Language	
	Install_BIDI	[BIDI]
	Delete_Printers	[Delete_Printers]
	Delete_Ports	[Delete_Ports]
	Connect_Printer	[ConnectPrinter]
	Redirect_Port	[RedirectPort]
	Publish_Printer	
	Install_MVINET	[MVINET]
	AllowReboot	
	Install_Tools	[Tools]
[Computer]	Computer1 ⁽¹⁾	[Computer1] ⁽¹⁾
	Computer2 ⁽¹⁾	[Computer2] ⁽¹⁾
[BIDI]	StatusWindow	
[Drivers]	Printer1 ⁽¹⁾	[Printer1] ⁽¹⁾
	Printer2 ⁽¹⁾	[Printer2] ⁽¹⁾

(1)= これらの key およびそれに対応する対 section は、ユーザー定義であり、任意の名前を付けられます。同様に、必要に応じて追加の key および対 section を作成できます（例えば、Printer20、Printer 21、等）。

サポートされている Section、Key、および必須対 Section

Section	サポートされている Key	必須対 Section
[Network]	NetWare	
	TCPIP	
	LexLink	
	UPS	
	P2Server	
	P2Client	
	IPX	
	DLC	
	ServerAgent	
	Tivoli	
	AdapterSetupUtility	
	AdapterSetupUtilityDir	
[DrvCfgTool]	RunDrvCfgTool	
	DrvCfgToolDir	
[Computer1] ⁽¹⁾	ComputerName	
	UserName	
	Password	
	EComputerName	
	EUserName	
	EPassword	
[MVINET]	MVINETServerDir	
	MVINETServer	
	MVINETSrvMVMessenger	
	MVINETSrvWebClient	
	MVINETSrvWDPOnly	
	MVINETSrvWDPWin	
	MVINETSrvWDPUnix	
	MVINETClient	
	MVINETClientDir	

(1)= これらの key およびそれに対応する対 section は、ユーザー定義であり、任意の名前を付けられます。同様に、必要に応じて追加の key および対 section を作成できます（例えば、Printer20、Printer 21、等）。

サポートされている Section、Key、および必須対 Section

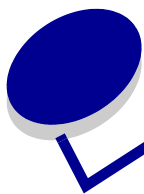
Section	サポートされている Key	必須対 Section
[Printer1] ⁽¹⁾	Model	
	Stream	
	Name	
	RealName	
	Port	
	Share	
	ShareName	
	Alt9xDrv	
	AltNTDrv	
	Published	
	Default	
	CfgFile	
	CfgEntry	
	Comment	
	Location	
[ConnectPrinter]	Printer1 ⁽¹⁾	[Printer1] ⁽¹⁾
[RedirectPort]	LPT1:	
	LPT2:	
	LPT3:	
	COM1:	
	COM3:	
	COM4:	
[Port]	Port1 ⁽¹⁾	[Port1] ⁽¹⁾
[Port1] ⁽¹⁾	Protocol	
	IPAddress	
	PortName	
	CommunityName	
	AdapterType	
	PortType	
[DeletePrinters]	Printer1 ⁽¹⁾	[Printer1] ⁽¹⁾
[DeletePorts]	Port1 ⁽¹⁾	
[Defaults]	UserName	
	Password	
	EUserName	
	EPassword	
	ComputerList	[ComputerList]

(1)= これらの key およびそれに対応する対 section は、ユーザー定義であり、任意の名前を付けられます。同様に、必要に応じて追加の key および対 section を作成できます（例えば、Printer20、Printer 21、等）。

サポートされている Section、Key、および必須対 Section

Section	サポートされている Key	必須対 Section
[ComputerList]	(See 48 ページの [ComputerList])	
[Tools]	HPOpenView CAUniCenter SetupUtility SetupUtilityDir	
(1)= これらの key およびそれに対応する対 section は、ユーザー定義であり、任意の名前を付けられます。同様に、必要に応じて追加の key および対 section を作成できます (例えば、Printer20、Printer 21、等)。		

- 以下の節で使用可能な section を個別に吟味し、スクリプト内でどのように機能するかを説明します。



[Install]

- [Install] は、スクリプト インストールの主 section です。[Install] section 内の key が何をインストールするか、および他のどの section を探し、処理するかを指定します。スクリプト インストールでは、key の値が 1 に設定されている時にそれが処理されます。
- AllowReboot は、特殊なケースです。この key は、スクリプトを完了した後でコンピュータを再起動する必要がある場合にのみ処理されます。値が 1 だと再起動確認プロンプトに肯定の返事を返し、値が 0 だと再起動確認プロンプトに否定の返事を返します。第 3 の選択肢は、ヌル値（「AllowReboot=」）です。ヌル値では、再起動確認要請に返事を出さず、従ってスクリプト インストール中は、プロンプトに返事がないままになります。すなわち、スクリプトが終了した後にインストールが行われたターゲットワークステーションでプロンプトに応答する必要があります。
- インストール先コンピュータが Windows NT、Windows 2000、または Windows XP を使用している場合、AllowReboot をいつも 0 に設定しておいて殆ど問題ありません。しかしながら、インストール先コンピュータが Windows 95、Windows 98、または Windows Me を使用している場合、AllowReboot=1 に設定することが推奨されます。

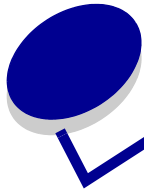
注記：変数が 1 に設定されている [Install] section が最低一つ無いとスクリプト インストールは、機能しません。

- CD インターフェイスで作成されたスクリプトは、OS= の key を持ちます。特に変更されなければ、この値は、スクリプトを作成したシステムの os に対応します。

注記：スクリプトが複数のシステムへのインストールの実行に使用される場合は、OS= の key を削除することが推奨されます。

```
[Install]
Install_Driver=1
Install_Network=1
Update_Software=1
Install_DrvCfgTool=1
Install_Port=1
Language=Italian [選択肢は、English、French、German、Italian、Spanish、Portbrzl、Chi_Simp、Chi_Trad、Japanese、Korean です。]
Install_BIDI=1
Delete_Printers=1 [プル インストールでのみ有効です。]
Delete_Ports=1 [プル インストールでのみ有効です。]
Connect_Printer=1 [Windows NT、2000、および XP システムでは、プル インストールでのみ有効です。]
Redirect_Port=1 [プル インストールでのみ有効です。]
Install_MVINET=1
Install_Tools=1 [各種の管理ツールをインストールします。]
AllowReboot=0 [プル インストールでのみ有効です。1 ではプロンプトの表示無しに再起動し、0 では再起動せ
```

ず、値無しの場合は確認のプロンプトを表示して再起動するか選択できるようにします。]
OS=2000 [選択肢は、9x、NT、2000、XP です。Windows Me システムには、9x を使用します。]



[Computer]

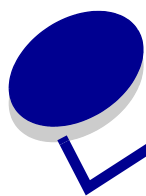
- この section は、スクリプト インストールでプッシュ インストールのターゲットにするリモート コンピュータを指定します。
- この section を使って全てのターゲット ワークステーションに一度にソフトウェアをインストールできます。
- プッシュ インストールは、Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ機能します。
- プッシュ インストールでは、リモートのシステムに MarkVision ソフトウェア、ドライバ プロファイラ、およびプリンタ セットアップ ユーティリティを読み込めません。しかしながら、ドライバ プロファイラにより作成された DCF ファイルをプッシュ インストール中に使って、各ドライバが読み込まれる時の構成設定を制御できます。

[Computer]

Computer1= [値は必要ありません。key は任意ですが、一致する section が必要です。]

Computer2= [値は必要ありません。key は任意ですが、一致する section が必要です。]

Raindrop= [値は必要ありません。key は任意ですが、一致する section が必要です。]



[Computer1]

- いつも指定されたアカウントが管理者特権を持っていないと、スクリプト インストールが作業を行う許可が下りません。自分の管理者アカウントを使って各インストールを可能にできます。
- この section には、[Computer] section で Computer1= として宣言されたワークステーションに関する固有情報が含まれています。
- ドライバ CD インターフェイスを使用してリモート システムのためのスクリプトを生成すると、ドライバ CD インターフェイスにより下記の例のようにこの情報は自動的に暗号化され、ComputerName、UserName、および Password フィールドの前に「E」が付けられます。

```
[Computer1]
EComputerName=Kh4fPM@s
EUserName=|GmSjBf4
EPassword=&xfSiltGt
```

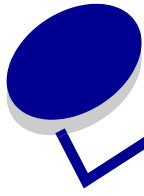
注記： EComputerName=、Eusername=、および Epassword= の key の暗号化された値からアカウント情報を知ることはできませんが、暗号化された文字列をそのまま別のスクリプトにカット アンド ペーストして、システムにアクセスすることは可能です。従って、暗号化された値を使うものも含めて、全てのスクリプトを不正アクセスから守る必要があります。このことは、何台ものシステムの管理者特権を持つユーザー名とパスワードが入っているスクリプトに関しては特に重要です。

- 以下の section には、[Computer] section で Computer2= として宣言されたワークステーションに関する固有情報が含まれています。このワークステーションの識別情報は暗号化されていないことに注意して下さい。

```
[Computer2]
ComputerName=Amethyst
Username=PaulZ
Password=C++monkey
```

- 以下の section には、[Computer3] という代りに単に [Raindrop] と呼ぶことにしたワークステーションに関する固有情報が含まれています。この任意に選ばれた名前でワークステーションを指定できます。[Computer] section で宣言されていて、以下のようなそれ専用の section がある限り、任意の名前が使えます。

```
[Raindrop]
ComputerName=Minerva
Username=Fern
Password=cappuccino
```

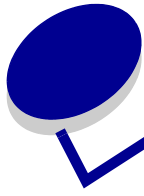


[Bidi]

- この section は、プリンタ ドライバのための両方向通信サポートをインストールします。
- ネットワーク ポートを作成する、またはネットワーク サポートをインストールするには、双方向通信サポートがインストールされている必要があります。
- 双方向通信サポートをインストールするには、StatusWindow に値を設定する必要があります。ただし、この値を 1 と 0 のどちらに設定しても、双方向通信サポートを必要とするリソースは全て正常に機能します。
- StatusWindow=1 に設定すると、プリンタから重要なメッセージがあったら（通常エラーメッセージまたは消耗品残少警報） ウィンドウを起動して表示するようにターゲット コンピュータを設定します。

[Bidi]

StatusWindow=1



[Drivers]

この section では、RealName によりどのプリンタ ドライバをインストールするかを一覧します。求めるプリンタ ドライバの RealName を調べるには、以下の手順に従います。

- 1 ドライバ CD を起動し、**[プリンタ ソフトウェア]** **[同意する]** を選びます。
- 2 **[カスタム インストール]** ▶ **[次へ]** を選択します。
- 3 **[ローカル コンピュータ]** ▶ **[次へ]** を選びます。
- 4 **[プリンタ ドライバ]** ▶ **[次へ]** を選択します。
- 5 お使いのプリンタを反転表示させ、**[追加]** ▶ **[次へ]** をクリックします。

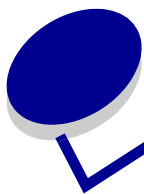
これでカスタム セットアップ - インストール オプション画面が表示されます。選択した各プリンタに対して一つ以上のドライバが列記され、その RealName が赤い四角の中に白いチェックマークで示してあります。

プリンタの RealName は、プリンタの機種（言語が PCL の場合）またはプリンタの機種に Postscript レベルを追加してあります。

この section を使用して、プリンタ ドライバ（複数可）をインストールします。

[Drivers]

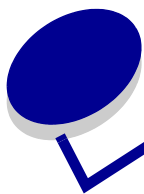
Printer1=Laser Printer 15 PS3



[Printer1]

- この section には、[Drivers] section で Printer1 として宣言されたプリンタの固有情報が入っています。
- [Drivers] section で定義された各プリンタ ドライバに対してそれぞれ、以下のような section が必要です。次のプリンタ固有情報 section は、[Printer2] 等々。

```
[Printer1]
Model=Laser Printer 15
Stream=PS [選択肢は、PS、PCL です。]
Name=15 [任意です。]
RealName=Laser Printer 15 PS3 [38 ページの [Drivers] 節の注記を参照して下さい。]
Port=CPAPort [既存のポートまたはこのスクリプトが作成するポートと一致する必要があります。]
Share=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効。]
ShareName=Printer [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効。]
Alt9xDrv=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効。]
AltNTDrv=1 [Windows 2000 および Windows XP システムでのみ有効。]
Published=0 [Windows 2000 および Windows XP システムでのみ有効。]
Default=0 [1 では、これが通常使うプリンタに設定されます。]
CfgFile=c:\printer_profiles\timpsprofiles.dcf [既に DCF (.dcf ファイル) がこの場所になければなりません。]
CfgEntry=15 Postscript [これは、プロファイル作成時に入力される「プロファイル名称」です。詳しくは、11 ページのドライバ プロファイルを参照して下さい。]
Comment=Color printer with duplex option. [任意です。]
Location=Main printer room. [任意です。]
```



[Network]

- この section は、種々のネットワーク プロトコルのサポートをインストールします。
- ネットワーク サポートをインストールするには、双方向通信サポートがインストールされている必要があります。37 ページの **[Bidi]** を参照して下さい。
- プリントサーバー セットアップ ユーティリティは、プル インストールでしかインストールできません (AdapterSetupUtility で始まるキーは全てプリントサーバー セットアップ ユーティリティに関連しています)。

[Network]

NetWare=1

TCP/IP=1

Lexlink=1

UPS=1

P2Pserver=1 [Windows 95 および Windows 98 システムでのみ有効です。]

P2Pclient=1 [Windows 95 および Windows 98 システムでのみ有効です。]

IPX=1 [Windows 95 および Windows 98 システムでのみ有効です。]

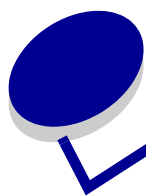
DLC=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

ServerAgent=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

Tivoli=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

AdapterSetupUtility=1

AdapterSetupUtilityDir=C:\Program Files\Printer\PrintServerUtility[インストール先のディレクトリです。]



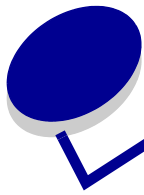
[DrvCfgTool]

- この section は、ドライバ プロファイラをインストールします。
- ドライバ プロファイラは、プル インストールでしかインストールできません。
- ドライバ プロファイラを使ってプロファイルを作成し (.dcf ファイルに保存)、構成設定済みのプリンタドライバをインストールできるようになります。ドライバ プロファイラの詳細については、[11 ページのドライバ プロファイラ](#)を参照して下さい。

[DrvCfgTool]

RunDrvCfgTool=1

DrvCfgToolDir=C:\Program Files\Printer\Driver Profiler [これがインストール先のディレクトリです。]



[Mvinet]

- この section は、MarkVision Professional と MarkVision メッセージの両方をインストールします。
- これらの強力なパッケージは、遠隔操作でお使いのプリンタ ネットワークを監視、指揮する広範な機能を持っています。ドライバ CD でそれらの説明書類を参照して下さい。
- MarkVision は、プル インストールでのみインストールできます。

[Mvinet]

MVINETServerDir=C:\Program Files\Printer\MarkVision Server [これがインストール先のディレクトリです。]

MVINETServer=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

MVINETSrvMVMessenger=1 [これは、MarkVision Messenger で、Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

MVINETSrvWebClient=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

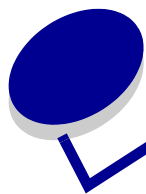
MVINETSrvWDPOnly=1 [MVINETSrvWDPWin または MVINETSrvWDPUnix が選択されている場合は、このオプションを 1 に設定する必要があります。Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

MVINETSrvWDPWin=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

MVINETSrvWDPUnix=1 [Windows NT、Windows 2000、および Windows XP システムでのみ有効です。]

MVINETClient=1 [これは、MarkVision Professional です。]

MVINETClientDir=C:\Program Files\Printers\MarkVision Client [これがインストール先のディレクトリです。]

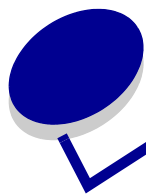


[ConnectPrinter]

- この section は、ネットワーク プリンタへの接続を作成します。これは、Windows NT または Windows 2000 でネットワーク ポイント アンド プリントを行うのと同様です。
- 接続するネットワーク プリンタの数に制限はありませんが、各プリンタに固有の名前を付ける必要があります。
- Windows NT、Windows 2000、および Windows XP では、プル インストールでのみ有効です。

```
[ConnectPrinter]
```

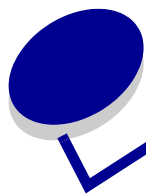
```
Printer1=\\Server\printerX
```



[RedirectPort]

- この section は、ポートをネットワーク共有名に割り当てます。
- RedirectPortは、DOSコマンドの「net use」を模倣します。例えば、下記のスクリプトsectionはMS-DOSプロンプトでnet use LPT3:=\\server\printerX を入力したのと同じ効果を持ちます。
- プル インストールでのみ有効です。

```
[RedirectPort]  
LPT3:=\\server\printerX
```

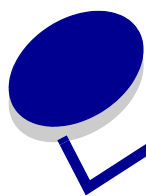


[Port]

- この section は、ネットワーク ポートを作成することを指定します。

[Port]

Port1= [値は要りません。変数は任意ですが、一致する section がなければなりません。]



[Port1]

- この section には、[Port] section で Port1 として宣言されたポートに関する固有情報が含まれています。
- [Port] section で定義された各ポートに対して、以下のような section が必要です。
- 入力する値には、プリンタのプリントサーバーの情報が含まれています。
- 全てのプリントサーバーで標準設定の CommunityName は、public になっていることに注意して下さい。public が受け付けられない場合は、プリントサーバー IP アドレスの SNMP 診断を実行します。
- ネットワーク ポートを作成するには、双方向通信サポートがインストールされている必要があります。[37 ページの \[Bidir\]](#) を参照して下さい。
- ポートの作成に使用するプロトコルによっては、HostName、IPAddress、または MacAddress を指定する必要があります。必須のパラメータについては、以下の表を参照して下さい。

プロトコル別パラメータ

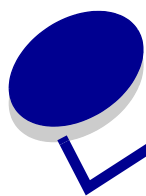
プロトコル 値	プリントサーバー種 およびポートの種類	ホスト名	IP アドレス	Mac アドレス	ポート名	コミュニティ 名
TCPIP	オプション	(1)	(1)		必須	必須
LPR	適用なし	(1)	(1)		必須	必須
IP	オプション		必須		必須	必須
UNC	適用なし	必須			必須	必須

(1) = ホスト名または IP アドレスが必要です。

- 通常、インストール スクリプト中の数値はブール関数で、値は 0 か 1 です。値が 1 だと対応する section が処理される、対応するソフトウェアがインストールされる、または対応する作業が行われることを意味します。値が 0 だとその逆です。
- 以下の 3 つの key が 0 か 1 以外の数値を取ります。
 - IPAddress= (192.168.236.24 のようなアドレスを取ります。)
 - AdapterType= ([51 ページのプリントサーバー機種別 key 値](#)からの値を取ります。)
 - PortType= ([52 ページのポート別 key 値](#)からの値を取ります。)

下記の例では、TCP/IP または LPR ポートの作成の仕方を示しています。IP ポートを作成するには、[46 ページの
プロトコル別パラメータ](#)に示されているようにパラメータを含めるまたは除外する必要があるかもしれません。

```
[Port1]
Protocol=TCPIP
HostName=artichoke1.port.mycompany.com [プリントサーバーの IP ホスト名です。プリントサーバーの
IP アドレスで代用できます。]
IPAddress=192.168.236.24
PortName=Lexington [任意の名前です。]
CommunityName=public
AdapterType=32 [51 ページのプリントサーバー機種別 key 値を参照して下さい。]
PortType=COM1 [52 ページのポート別 key 値を参照して下さい。]
```

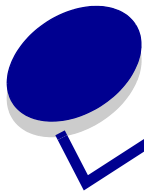


[ComputerList]

- [ComputerList] section には、一行に一台ずつコンピュータ名が一覧されています。この section に一覧されている各コンピュータ名が、[Defaults] section で指定されている標準設定のユーザー名とパスワードと共に使用されます。[ComputerList] が [defaults] とどう掛りあうかの詳細については、[49 ページの \[Defaults\]](#) を参照して下さい。
- [ComputerList] section でコンピュータ名を指定する方法は、以下の 3 通りあります。
 - コンピュータの簡易名のみ使用
 - コンピュータの簡易名およびドメイン名を使用
 - IP アドレスを使用

```
[ComputerList]
Woody
Buzz1
Buzz2.blackhole.mycompany.com
Slinky
192.168.236.24
```

注記： [ComputerList] section は、オプションであり、ドライバ CD で自動生成されるスクリプト ファイルには入っていません。使用するには、手動でテキスト エディタを使って編集し、この section を書き加える必要があります。



[Defaults]

- [Defaults] section では、以下の key が使用可能です。

```
[Defaults]
EUserName=ao`~S^]
EPassword=mIHt
ComputerList=list.cmp
```

or

```
[Defaults]
UserName=gates
Password=$$$rich$$$
ComputerList=e:\install\list.cmp
```

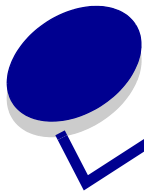
- ComputerList key は、参照されるファイルへのフル パスを値として取ることもできるし、単にファイル名だけでも構いません。ファイル名だけが値になっていると、スクリプト インストールでは現在のディレクトリでこのファイルが検索されます。この key で定義されるファイルには、このスクリプト インストールで使用される追加のリモート コンピュータが一覧されています。このファイルは、ドライバ CD で生成される .cmp ファイルでも良いし、別のスクリプト ファイルでも良いし、[ComputerList] section を持つその他の任意のテキスト ファイルでも構いません。参照されるファイルにある全てのコンピュータとその属性が構文解析され、本スクリプト ファイルで直接指定されているものと共にスクリプト インストールで使用されます。
- [Defaults] section の EuserName、Epassword または UserName、Password key に入る値は、以下のものを指定します。
 - 本スクリプト ファイル内で指名されているコンピュータのユーザー名およびパスワード
 - .cmp ファイルに入っていて、その中でユーザー名とパスワードが指定されていないコンピュータのユーザー名およびパスワード
 - [ComputerList] section にある全てのコンピュータのユーザー名およびパスワード

コマンド行

標準設定の UserName および Password を [Defaults] section を使って指定するよりも、これらの値を直接コマンド行で指定する方が実際的にも知れません。その構文は以下のようになっています。

```
\win_32\install\setup.exe \U:gates \P:$$$rich$$$
```

setup.exe の適切なバージョンの探し方の詳細については、[9 ページの MS-DOS \(コマンド\) プロンプトから起動](#)を参照して下さい。

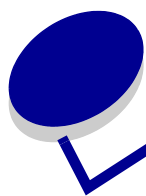


[Tools]

- [Tools] section は、以下のように構成されます。

```
[Tools]  
HPOpenView=1  
CaUniCenter=1  
SetupUtility=1  
SetupUtilityDir=.....
```

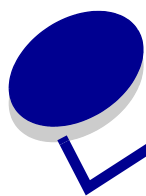
- この section は、HP Openview Network Node Manager、CA UniCenter および Setup Utility 用の Snap-In をインストールします。この SnapIn は、ネットワーク印刷デバイスをインストールし、接続し、構成設定できるようにします。
- この Snap-In をインストールするには、HP Openview、CA UniCenter、または E320/322 Utility が既にインストールされている必要があります。詳しくは、各管理ツールの説明書類を参照して下さい。



プリントサーバー機種別 key 値

プリントサーバーの機種に基いて選択します。

プリントサーバーの機種	インストール スクリプトで使う値	プリントサーバーの種類
MarkNet™	1	内蔵
MarkNet XLe (2 ポート)	2	外付け
Marknet XLe (3 ポート)	4	外付け
4033	8	外付け
MarkNet XLe	16	内蔵
MarkNet S	32	内蔵
MarkNet XP	33	外付け
MarkNet X2011e	33	外付け
MarkNet Xi	33	内蔵
MarkNet X2012e	34	外付け
MarkNet X2031e	36	外付け
MarkNet X2030t	40	外付け
Integrated Ethernet (統合イーサネット)	65	内蔵
MarkNet N2001e	65	内蔵
MarkNet N2002e	66	内蔵
MarkNet N2000t	68	内蔵
MarkNet N2501e	72	内蔵
MarkNet N2401e	73	内蔵
MarkNet Pro 3	128	外付け
MarkNet Pro 1	129	外付け
MarkNet N 2003fx-SC	65	内蔵
MarkNet N 2003fx-MTRJ	65	内蔵



ポート別 key 値

内蔵プリントサーバーには、0 を使います。外付けネットワーク プリントサーバーに関しては、下の表にあるサポートされている値を使います。

サポートされている外付け プリントサーバー
LPT
LPT1
LPT2
LPT3
LPT4
COM
COM1
COM2
COM3
COM4

改訂の記事

2002 年 9 月

© Copyright 2002 Lexmark International, Inc.

All rights reserved.

アメリカ合衆国政府機関の制限付き権利

このソフトウェアと説明書類は、制限付き権利と共に供給されています。政府による使用、複製、または開示は DFARS 条項 252.227-7013 の「技術データおよびコンピュータ ソフトウェアにおける権利」の (c) (1) (ii) 項に示されている制限および適用される FAR 規定の条項の制限を受けます。Lexmark International, Inc., Lexington, KY 40550.

商標

MarkNet、および MarkVision は、米国およびその他の国で登録された Lexmark International, Inc. の商標です。

PostScript® は、Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

PCL® は、Hewlett-Packard Company の登録商標です。PCL は Hewlett-Packard Company のプリンタ商品に含まれる、一式のプリンタ コマンド（言語）と機能の呼び名です。本書で言及されているプリンタは、PCL 言語に対応するように設計、製造されました。これは、このプリンタが、様々なアプリケーション プログラムで使われている PCL コマンドを認識し、そのコマンドに対応する機能のエミュレーションを実行できるということを意味します。

その他の商標は、それぞれ各所有者に帰属する財産です。